

6月28日 設工認に係るヒアリング 振り返り

(資料構成 (全体))	本文頁	サンプル頁
① 資料1、別添1、2については、表の目的を明確にすること。また、別添1と本文の表が重複しているため、資料の目的を示した上で、重複を避けるよう整理すること。	P2(目的) P4(構成)	—
② 資料3の構成を設計説明分類で整理するようになっているが、説明グループとしての繋がりが分からなくなっているため、資料3で説明グループとの関係をはっきりさせること。	P4(構成) P7(説明Grと資料3の基本設計方針)	P22, P23
③ 資料3の冒頭につける各条文の基本設計方針に対する整理結果において、どの設計説明分類で説明を展開しているかを明記すること。	今回なし	
④ 既認可からの変更点において、地震動が大きくなっているにも関わらず、固定ボルトの本数が減る、といった構造変更をしているものがあるが、これらの設計上の考え方については記載を充実化すること。	今回なし	
⑤ 配置設計を示す場合には、その配置についてどのような設計上の要求から何を説明すべきなのかを考えた上で、資料を整理すること。	今回なし	
⑥ 8月の審査会合に向けて、本資料を基にどのように説明していくのか、を念頭に置きながら整理を進めていくこと。また、本ヒアリング結果を踏まえて、今後の進め方のヒアリングにてスケジュール感を提示すること。	今回なし	
⑦ p14、15/p19～22で記載している「4. 共通12の説明方針」については説明の進め方の考え方を示したうえで、「2. 4 設計説明分類の設定方針と各施設の設計説明分類」の記載内容を考慮して構成を見直すこと。	今回なし	
⑧ P23からの参考資料は全体的に最新の情報に更新すること。	今回なし	
⑨ P35で示している資料3の「説明方針」の欄において、「後段で説明する」ではなく、P20で示されているように、具体的な設計説明分類の情報を追加すること。	今回なし	

(資料1：申請対象設備リスト)	本文頁	サンプル頁
⑩ 資料1と設工認で示している申請対象設備リストとの間に不整合がないよう、施設共通基本設計方針の考え方を示すこと。	今回なし	
⑪ 資料1の変更区分の記載については、建設段階であるMOXの状況はあるものの、再処理の記載の考え方と整合を図る必要があるため、整理を行うこと。	今回なし	
⑫ 資料1の兼用設備のうち、工程室排気設備の主配管のように兼用範囲を複数含むような設備について、兼用の範囲と対象を示す考え方が分かるように記載すること。また、仕様書の記載方法と申請対象設備リストの記載についても併せて整理すること。	今回なし	
⑬ p39：資料1の耐震に係る「既設工認からの耐震評価結果条件の変更箇所」について、再処理と違い「○」が入る項目が限られているため、変更項目の考え方を再整理すること。	今回なし	
⑭ p39：No.242等の設備において「B-1 (1/2Sdに見直し)」と整理した場合に、変更点として「設計用地震力の設定」に「○」がつくべきと思われるため考え方を整理すること。	今回なし	

(資料2：各条文の設計方針及び設計説明分類の紐付整理)	本文頁	サンプル頁
⑮ 設計説明分類の考え方について、設計方針の説明を他の設計説明分類に飛ばすものと飛ばさないものの考え方を整理して、記載を見直すこと。また、資料2の中で代表として説明するものについては、欄を追加し、他項目へ飛ばして説明するもの、他項目から飛ばされてきて説明するもの、が明確になるように記載すること。	P6	P16, P17
⑯ 設計説明分類 (システム設計、評価等) ごとに説明すべき内容を明確にして整理すること。	今回なし	
⑰ ⑩、⑪、⑫の項目については資料3への繋がりを踏まえて資料2への展開を行うこと。	今回なし	

(資料3 設計説明分類のシステム設計、構造設計、配置設計)	本文頁	サンプル頁
⑱ 「②詳細説明図」に示されているGBの構造設計について、仕様 (寸法等) 情報の記載がばらばらになっているが、仕様を記載することの必要性について、本資料において説明すべき内容を整理して、必要な情報を記載するよう資料を見直すこと。	今回なし	
⑲ p284の崩壊熱除去の設計の説明を例にするが、設計として示す必要がある情報を全て挙げた上で明確にすること。その説明のためには、その前段として、資料2において設計において考慮すべき内容を挙げた上で、それをどの項目で説明するかというすみ分けを整理しておく必要があるため、繋がりを含めて資料を整理すること。	今回なし	
⑳ p294/p298：容器落下時のGBへの影響については、閉じ込めと搬送設備との関係もあり、どの内容をどこまで説明するか、及び資料2においてどのような要求があるか、の整理も必要であり、説明ロジックの整理も含め、他の設計説明分類の記載とのすみ分けを整理すること。2-2の評価との関係を含めて2-1として説明することの整理、個別補足説明資料で説明する整理も追加する	今回なし	

(耐震関係)	本文頁	サンプル頁
21 p274、275にある詳細設計展開表 (耐震設計プロセスの条件) については、資料3になって登場することに違和感があり、資料2の段階で整理されるべき内容と考えられるため、2-1/2-2で説明すべき内容の切り分けも検討し、上流側からの繋がりを含め再度整理すること。	P11～P14	P30
22 GBの耐震評価において、何故、有限要素モデルを用いて評価するのか、その理由の説明が必要であるため記載すること。その際、設計としての考え方の事実を忠実に反映するような記載とするよう、検討すること。また、有限要素モデルの中で、梁モデル、シェルモデルの適用の考え方を明確にすること。	—	P31
23 構造を説明する図においては、耐震評価に必要な寸法、構造 (缶体のサポート等) を2-1構造設計として示し、2-2の評価 (解析プログラムや入力地震動等) に繋げること。	今回なし	
24 構造を説明する図において、GB基礎部の構造が分かるように示した上で、評価における拘束条件をどのように設定しているか分かるように記載すること。	今回なし	
25 評価に用いている環境条件について、基本方針の内容と齟齬が生じないように記載を適切に修正するとともに、その条件設定の考え方がわかるようにした上で、適切な分類の箇所 (解析モデルの設定条件) に記載すること。特に、評価における付加質量については、どのように考慮しているのかも含め、記載を充実させること (湿度・温度の記載での齟齬、比重の記載及び記載箇所の整理、有限要素モデルに質量が限定されている 等)。	今回なし	
26 耐震として個別に資料を起しているが、閉じ込め機能の維持について、GBの構造設計の結果を評価するものであるため、耐震設計として新たに図面を整理するのではなく、構造設計の図の中で、耐震の情報を追加していくことでも説明できると考えられる。そのような整理の検討を進めること。	—	P34(閉じ込め) P35(耐震)
27 補足説明資料で説明する内容が不明確で、どのような内容の説明がなされるのかが、資料から読み取ることができないため、説明すべき内容がわかるよう、記載を充実させること。	今回なし	
28 グローブボックス接続部のベローズについては、閉じ込め機能の確保として、耐震設計と関係するとの説明があつたはずであり、その反映を行うこと。それ以外の記載についても、全ての設計考慮事項が漏れなく展開されるよう整理すること。	今回なし	
29 グローブボックスの内装機器は、耐震評価において考慮すべきものであるが、その考え方が記載されていないため、耐震モデルにおいて内装機器をどのような考え方で考慮しているのか示すこと。	今回なし	
30 p307、308：拘束条件の記載について、どのように考慮しているものなのか、現状の記載ではわからないので、記載を充実させて説明を追加すること。	今回なし	
31 防火シャッターについて、耐震モデルとしてどのように考慮しているのかについて、説明を追加すること。また、評価においては波及影響 (扉のバタツキ) についても、どのように考慮しているのか、説明を追加すること。	今回なし	